



今月のテーマ 『経済と地域社会の発展月間』

第1450回例会

2016年10月20日 Vol.31/No.14

■本日の例会 / 第1451回 平成28年10月27日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告-----各委員長
- 宮日美展報告-----講評 受賞者紹介 江口健一 委員長
- 受賞者卓話-----那須 誠 様
- 会員卓話-----佐々木 究 会員

【出席率状況報告】

- ・会員数54名
- ・出席者35名
- ・欠席者19名
- ・出席率 64.81%
- ・10/ 6の修正出席率・74.07%

■会長挨拶

会長 香川美穂子



こんにちは！皆さんもお読みになったかもしれませんが、10月14日の宮日の「老境佳境」と言うコーナーにノートルダム清心学園の渡辺和子さんが取り上げられていました。

彼女は9歳の時お父様が二・二六事件で凶弾に倒れるのを「隠れて！」とお父様に言われて隠れた座卓の下から見ておられたと言う大変な経験をなさった方です。「一人で父を看取った。私は軍人の娘。どんな事があっても声一つ出さず、絶対に泣きませんでした」と言っておられます。9歳といえば小学校の3年生です。その渡辺さんは数年前だと思いますが「置かれた場所で咲きなさい」と言う本を出され、それがベストセラーになりました。「置かれた場所で咲く」と言う意味は、ありのままの現実を受け止め受け入れ、その中で自分の能力を出し切る自分が求められているのだと思います。つまり自分の環境・能力等に不平を言わず、素直に能力を発揮する。発揮できるチャンスを与えられたことを感謝してベストを尽くすと言う事なのでしょう。我々はとかく人と自分を比べ人の環境を羨みあげく自分の至らなさを人のせいにしてしがちです。それは無い物ねだりだし非常に卑屈な精神だと思います。昔から「足を知る」「上には上が、下には下がある」との言葉が残されているにもかかわらず、つつい周りを見てしまいます。「隣の芝生は青い」のです。勿論周りを観察し自分の立ち位置を知ることは大事ですが、そこで卑屈になったり人の足を引っ張ったりの人との比較は全くする必要がないと私は思っています。「人は人・我は我」と毅然として自分の能力を人の為に使える事を喜びとしたいものです。ロータリーの4つのテストは何よりの指針です。人には色々な能力があり決して同じではない

のですから比べる必要もありません。比べるのではなく素直に受け止め相手を認める事が大事だと思うし、それこそがロータリー精神だと思います。それぞれの立ち位置を認めていけば自由に人は能力を発揮でき、それが束ねられた時に良い社会が出来るのではないのでしょうか。そしてそれこそが「Rotary serving humanity」と思います。

先日友人達と「霧島神宮」に行きました。連れが展望台から景色を見ている時に私が一人で階段を一つ一つ登っておりましたところ、す〜っと近づいて来た女性が「何かお手伝い致しましょうか？」と声をかけて下さいました。とそのほとんど同時に反対側から多分同じグループの方と思いますが男性がさっと私の腕を取って階段を登る為に持ち上げようとして下さいました。私はとっさのことで驚き慌てて「いえ連れもおりますから大丈夫です」とお2人にお断りしましたが、その時にこの2つのパターンの違いに考えを巡らしてしまいました。英語の表現に「May I help you?」と「What can I do for you?」があります。両方ともサービスをする意思を表していますが位置関係が違います。声をかけて下さった女性は私の意思を「確認してから」との心遣い。もう一人の男性の方は私が難儀していると解釈し「手伝います」とすかさず行動に出られました。両方ともとても優しいことで私を気遣って即行動に移られた素晴らしい行為だと思います。又この月曜日の夜、あるレストランでビザを頼みました。持ってきた若い女性はお皿をボンと置いて行ってしまいましたので「さてどうやって食べようイタリア式に指でそのままつまむか」と思いましたが、熱かったので「フォークを」とお願いしました。熱さが取れた頃には指でつまんで食べたのですが、どうしても指が汚れます。おしぼりで指をふきふき食しておりましたら、横を通り過ぎて行った黒の制

服のマネージャーらしき男性が引き返して来て、おしぼりとナプキンの新しいセットをスッと置いて行かれました。

この2つの経験はこの1週間の中で立て続けに起きた事です。周りを注意深く見渡し相手の状況を観察して「何をしてあげる事が手助けか？」と考える事が心配りであり心遣い。サービスでしょう。行動は全てマニュアル通りではありません。決められた通りにすることは初心者にとっては必要でしょうが、更に進んだ立場の場合は臨機応変周りの状況に気を配って行動する。それこそが「置かれたところで咲く」一つの意識ではないかと考えた1週間でした。

■幹事報告

幹事 江藤敏治



ハイキングや山菜取りなど季節を感じることも多くなってきましたが、宮崎市にて、マダニにより媒介される感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が発生したと4日前に報告がありました。山間に行かれる際は防虫、手足のカバーなど細心の注意をお願いいたします。

また、風邪をこじらせて肺炎で入院される患者さんがとても多くなっています。ご注意ください。

○第4期RLI日程変更 12月11日→29年2月5日
○第2720地区前田ガバナーより熊本・大分地震義援金のお礼が届きました。

○ロータリー勉強会第15回が開催されます。

ホテルマリックス 18:30～

会員卓話

木村聡之 会員



私の元持病

今日は私の元持病、頭痛について話をしたいと思います。頭痛には緊張型の頭痛、片頭痛、群発頭痛の3種類ありますが、私は、この3つの頭痛を経験しました。

私は小学校、中学校と良く頭痛を起こしていたので頭痛薬は離せませんでした。高校になると頭痛もだんだん激しくなって、定期試験の頃に起こると0点の成績です。頭痛は40分から60分くらいだったのでしょうか。あまりの痛さに頭痛が治まってから疲れて眠ってしまいます。でも誰にも頭痛のことは言いませんでした。言っても他人に

はこの痛みは理解できないので授業も部活もずる休みと思われると思いました。頭痛が始まると1日に何回か発作のようにおこり何日も続きます。その痛みも生半可のものではありません。

大学に入るともっと痛みは激しくなりました。どんな痛みかという、左目の奥を鋸でギリギリと刺される感じです。それと同時に孫悟空のように頭を割れるように締め付けられあまりの痛みに生きることが嫌になってしまいます。しかしそのお陰で、この時期人生とは何か、何のために生きるのか、動物は、家畜は、植物はなぜ生きているのか、本を読んだり、考えるようになりました。24歳で就職してテレビ宮崎の東京支社に配属になりました。頭痛はますます激しくなりました。病院に行っても片頭痛の薬を処方されますが全く効きませんでした。しかし毎回病院に行っているうちにあることに気がつきます。頭痛が起こるのは季節の変わり目が多い、14日から50日続く、痛みは目の奥を鋸で刺される感じ、期間中はお酒を飲むと頭痛の引き起こすことなどのカルテの記録です。そのころNHKの教育テレビで頭痛特集をやっていた私と同じ症状の頭痛が群発頭痛という非常にまれな頭痛があるということを知りました。因みにネットには「群発頭痛は一言で言うと激痛の部類の疾患で、自殺した方が楽なのではと考える患者も少なくない。痛みは激しい非拍動性の痛みで目玉がドリルでえぐられるような、鋸で刺されるような痛みと訴えるぐらい耐え難い痛み」と書いてあります。ここで、「やった自分の病名が分かった、助かるかも、治せるかも」と一縷の望み、光明が見えた気がしました。そこで色々調べていたら、通信病院の麻酔科で星状神経ブロック注射が有効で効果があるという記事を見つけ訪ねて行きました。これが29歳のときです。しかし通信病院は「治療には効果がない事、あまりの痛みには耐えられず自殺することがあるので、建物の2階以上には行かないように。日本では患者が少なく薬が開発される可能性はない。海外には日本より患者がいるので待つしかない」と診察もせず薬も処方せず返されました。そこで日赤病院を訪ね、お願いをして麻酔科で週に1回星状神経ブロック注射をしてもらうことにしました。この時、効かなくても薬をもすがの気持ちでした。しかし、日赤病院も半年くらいで外来を受けてく

発行/宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敏治